

田植えが始まりました！例年、5月の発送日までには田植えが完了しているのですが、今月はこの通信を書いている今日も田植え作業が続いています。天候不順や圃場整備事業の遅れが響いて、例年よりスタートが遅れたためです。写真は、学校から帰って「バックモニター」の任務につく讚太郎。苗がちゃんと植わっているかどうか、肥料（菜種油カス）が出てきているか等をチェックします（笑）。



4月からの1か月は、目まぐるしい日々でした。先月の通信で、タネの選別をしたご報告をしましたが、1か月後にはそれが既に田んぼに植わっているのですから！種蒔き後に気温が上がったので、すすくと苗が育ち、ずいぶん背丈が高くなってしまいました。理想としては、太くて「シャン」としている長すぎも短すぎもしない苗がベストですが、なかなか理想通りにはいきません。苗を箱から持ち上げてみるとまるでスポンジのように見えるほどびっしりと根が張っていますから、この根をしっかり田んぼに張って株を増やしていって欲しいと思います。

さて、田植えの報告を先にしてしまいましたが、田植えに至るまでの作業について、遡ってご紹介したいと思います。種をまいたのは4月24日。今年は可愛らしい助っ人が2人も来てくれました。種蒔きには力よりも根気が必要で、農業経験アリの可愛い女子たちは、大活躍。女子が多いと耕太の機嫌がいいのも嬉しい（笑）4月からO2ファームで働いてくれているエースケも大活躍していて、日々、賑やかです。



とは言え、種蒔き以外の作業では、耕太は孤独な機械作業。牛の落し物からできた堆肥や肥料となる油かすを撒くのも、その後に軽く耕すのも、水を張って代掻き（土と水を混ぜたり泥を均したりする作業）をするのも、全部トラクター。田植えが始まれば、田植え機。本人の運動量はぐっと減ります。



毎日、ずっと機械に乗っているので、運動量の割には腰も神経も疲れるらしくヨメとしては心配なのですが、田んぼの下準備は責任が重い作業ばかりなので誰も交代できないのです。せいぜいお茶を渡しに行ったり、肩をもんだりくらいしかできません。田植えが終わってしまえば、アイガモ用のネットを張ったり、コイを入れるための準備をしたり、私や女子たちでも十分役に立てるのですが。田植え終了まであと少し、父ちゃん頑張れ！！

今年のGW。前半はファッションモデルさん御一行様、後半は大手広告代理店御一行様で、普段あまり接しない華やかな業界の人たちが次々とやってきました。20年前からパリコレに出ていたというモデルのSAWAさんは、すっかり阿蘇のファンになってくれて、あぜ道でファッションショーしようかなどと言い出すほど。これ、実現したら面白そうです！広告代理店の皆さんたちは、「農作業をしてみたい」とのことだったので、お茶摘みをお願いしました。いつもは田植えの後にしかお茶摘みができないのですが、そんなわけで人海作戦による新茶の手摘み！近所の子供たちも集まってきて、みんなでお茶摘み。できあがったお茶の爽やかさにはびっくりしました。



そうそう。大事なことを書き忘れていました。アイガモが来ました。予定していた日には卵から孵らず、翌日、生まれたてをお迎えに行きました。アイガモを孵化させる「農家さん」は、アイガモ農法をする農家にとって欠かせない存在ですが、全国に6人しかいないのだとか。本人談ですが。そんな方が熊本にいて下さること自体、有難いです。もう結構なお年なのですが、まだまだ頑張ってもらわないと！



ピョピョ言う生まれたての雛たちを連れて帰ると、家の脇に建っているビニールハウスにつくった育雛（いくすう）用のスペースに放します。翌日には運動場づくり。水鳥とは言え、練習をしないと溺れそうになったり、毛づくろいをしなかったりするので。子供たちが「ヒョウタン池を作りたい」と言い出したので、任せてみました。なかなか上手くできたようで、子供たちは満足そう。喜びいさんで池に入る雛たちですが、ずぶ濡れになって震えるひ弱っ子も。そんな子たちは、手遅れになる前にタオルで拭いてやり、必要ならドライヤーで乾かしてあげるのが、池を作った責任上、様子を見る役も子供たちがかって出てくれました。田んぼに出動するのは約2週間後。田んぼに放してから、小さいうちはカラスにいじめられたり、群れとはぐれてしまったりすることがあるので、「戦士」と呼べるほど逞しくなるまでにはまだ時間がかかります。



毎年、連休は田植え準備で子供たちをどこにも連れて行けませんが、子供たちでもできる仕事や、遊ぶ場所がいっぱいあるのが阿蘇の魅力。こんなこと（写真→）できる場所、他になかなかないですものね。後の洗濯は大変ですが、楽しそうなので何よりです。皆さまも梅雨に入る前の爽やかな季節を楽しんで下さい！

